

平成23年度 教育・学生支援センター自己評価報告書

自己評価の内容	
I 教育活動	<p>1. 教育の質の向上や高い質の維持に関する取組の状況</p> <p>教育企画はセンターのミッションそのものであり、全学の教育改善を組織・運営に関する事業として推進している。講義担当者としても、センター専任教員として専門性を生かし、共通教育部、教育文化学部における授業科目を担当し部局の教育プログラムに貢献している。</p> <p>(1) 学士課程</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 共通教育における、共通科目「英語」、教養発展科目（文化・社会系、キャリア教育・生涯学習系分野）の授業科目を担当し共通教育の充実を図った。 ・ 本学の英語学習プログラム「国際的に活躍できる専門職業人育成を目指した学士課程一貫の英語学習プログラム」における1年次共通教育英語科目において、eラーニングを活用し、英語基礎運用能力（語彙力・文法力）の育成を図った。 ・ 上記英語学習プログラムにおいて、単位の実質化を実現する授業運営を行い、厳格な成績評価を実施した。 ・ 教育文化学部における教科専門科目を担当し教員養成プログラムに貢献した。 <p>2. 学生支援の充実に関する取組</p> <p>(1) 履修指導・学習支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 英語学習プログラムの関連事業として、英語学習アドバイザー制度を導入し、英語学習に関する学習相談、カウンセリング、特別講座を開催した。 ・ 入学前教育として、学科の要請を受けて推薦合格者を対象にeラーニングを活用した遠隔教育を試験的に実施し、学生の英語学力の向上に貢献した。 ・ 発達障害を持つ学生に対応するために、安全衛生保健センターと本センターが協力して第1回学生支援フォーラムを開催した。障がい学生に対するより良い支援の在り方について教員の意識向上に貢献した。 ・ 聴覚障害学生のサポートのためのノートテイク養成講座（講義編、実技編）を実施した。 ・ 農学部の2学科と協力して、学習管理システム(WebClass)上で機能するeポートフォリオ開発し、平成24年度の運用に向けて準備を行った。 <p>(2) 学生相談・就職支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 学生の学修・生活相談の組織体制の整備及び、学生なんでも相談室の周知を図った。安全衛生保健センターとの学生支援カンファレンスを実施し、情報共有の体制を強化するとともに、新入生及びその保護者向けのリーフレットを作成・配付するなどして、学生一人ひとりが充実した学生生活が過ごせるようにした。 ・ キャリア支援課と連携し、就職ガイダンスや就職相談を実施した。 ・ とっても元気！宮大チャレンジ・プログラムの事業運営を学生委員会、キャリア支援専門委員会と連携し、21企画の運営を支援した。

<p style="text-align: center;">II 研究活動</p>	<p>1. 研究活動の推進に関する取組</p> <p>(1) 学長裁量経費等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・戦略重点経費として「英語運用能力を検証する学習到達度調査」が採択され、英語学習プログラムの到達度調査を行い、結果をホームページで公開した。 <p>(2) 科研費等の外部資金の受入状況や取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ・以下の科研費2件で研究を推進した。 「産学連携の教育効果に関するインディケータの構築」挑戦的萌芽研究、研究期間：2010年度～2012年度、研究代表者：藤埴智一 「国際的な環境変化に伴う我が国の高等教育システムの機能別分化と規模適正化」基盤研究(B)、研究期間：2011年度～2014年度、研究代表者：藤埴智一 <p>2. 特筆すべき研究成果、学会賞等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・英語学習プログラム実施委員会において、本センターが中心となり、平成22年度から導入された学士一貫の英語学習プログラムの学習効果を分析し、中間報告を取りまとめホームページで公開した。 ・上記英語学習プログラムにおいて、eラーニングを積極的に活用した学習プログラムを開発し、厳格な成績評価と単位の実質化を実現した。 ・新入生を対象とする学習調査（学習カルテⅠ）及び卒業年次生を対象とする学習調査（学学習調査（学習カルテⅡ））を実施し、その調査結果を全学及び学部FD研修会で報告し、教育改善の提言を行った。
<p style="text-align: center;">III 社会貢献</p>	<p>1. 教育・研究成果等の社会への還元</p> <p>(1) 公開講座、シンポジウム等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高等教育コンソーシアム宮崎の事業として公募による卒業研究事業を企画し、成果発表会を開催した。 ・高等教育コンソーシアム宮崎の事業として主に県内の高校一年生を対象とする授業体験会を企画し、実施した。 ・その他、センター教員が高等教育コンソーシアム宮崎の運営委員会委員、企画会議委員、及び諸事業の実施委員会委員として、コーディネート科目事業、単位互換事業、インターシップ事業、就職支援事業、FD事業を企画し、実施した。 <p>(2) メディアへの発信</p> <ul style="list-style-type: none"> ・県内高等教育機関、宮崎放送、テレビ宮崎と連携し、学生の課外活動を県民に広報し、学生の活動拠点の拡大に向けて支援を行った。その結果、学生の課外活動に対するモチベーションアップにもつながった。
<p style="text-align: center;">V 組織・運営</p>	<p>1. 管理運営での取組</p> <p>(1) 学部長・研究科長の補佐体制、教育研究組織、各種委員会の取組状況や見直し</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成22年10月に（旧）教育研究・地域連携センターを、（新）教育・学生支援センターに改組して2年目にあたり、事業の効率的な推進に向けて体制整備の点検を行った。 ・大学教育委員会の下部組織のFD専門委員会にセンターが中心に関わり、全学のFD研修会を開催した。 ・平成26年度実施に向けた学士課程教育の再編の取り組みとして、大学教育委員会の下に学士課程教育検討専門委員会が設定され、センター部門長、センター教員が中心的に検討に参加した。 ・専門委員会（FD専門委員会、キャリア支援専門委員会）の委員長をセンター部門長が担当することで、学内施策の企画組織としての機能を強化した。 ・安全衛生保健センターと連携し、学生なんでも相談室等における学生支援体制の整備・充実を図った。 <p>(2) 学部・学科事務、技術職員の能力開発（職員研修）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・英語学習プログラムを推進するため、技術職員を配置し、システム管理、学習履歴の収集・解析及び授業を効率的に運営するためのツール開発を行うなど能力開発に努めた。

<p>VI 施設・設備</p>	<p>1. 施設設備の整備・活用等に関する取組 ・特になし。</p>
<p>VII 課題・改善点等</p>	<p>1. 前年度の課題に対する改善点や今後の課題等 ・大学教育と学生支援という2つのミッションを効率的に企画・運営する方策を検討する。 ・障がいを持った学生の受入及び学生支援体制の充実に向けて、各部局等の取組みや整備状況を確認し、センター学生支援部門を中心に検討する。</p>